

開放閲覧室における
座席の位置
および座席数が
相席のしやすさに
与える影響

行動観察調査 C班

倉見栞奈/椎名里帆/藤沼想人



背景

開放閲覧室の現状

昼休み前後に利用者が集中
相席が見られることがある

1つのテーブルを複数人で利用すること

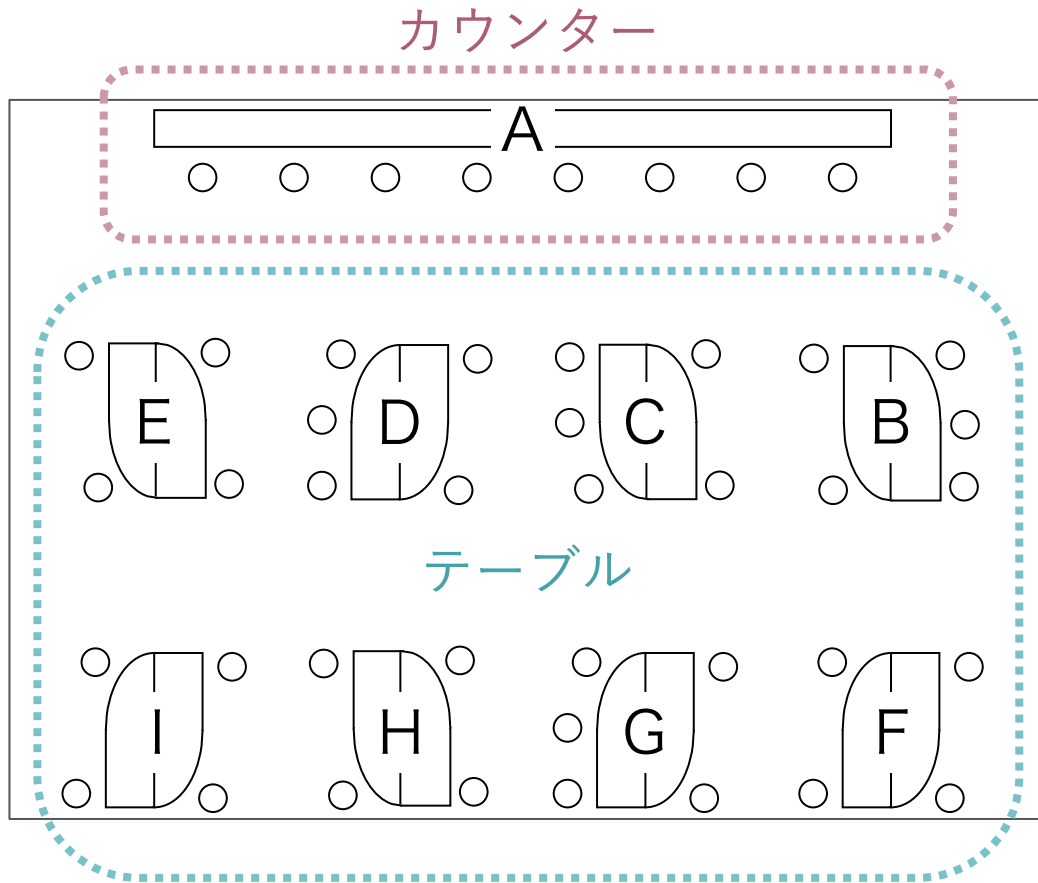
問題点

- 相席できるのに相席されない席
 - 相席せずに引き返す利用者
- が存在する

空間を有効活用できているとは言えない



目的



現在の座席数

カウンター：8席

テーブル：36席

テーブル1台あたりの座席数は4～5席

目的

相席しやすい座席数および座席の位置の提案

相席回数の増加・座席の効率的な利用の促進

仮説

相席する人の割合：

相席せずに済む状況

<

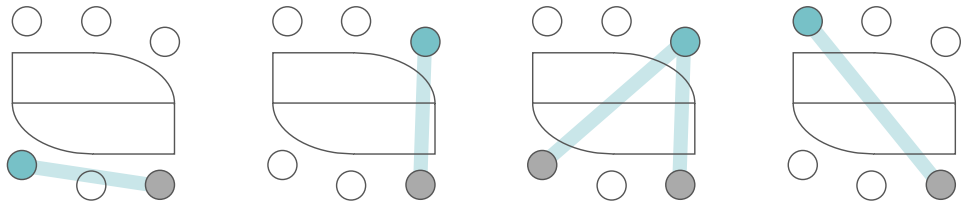
相席せざるを得ない状況

相席以外で座れる席がある

相席でしか座れる席がない

相席の座り方：

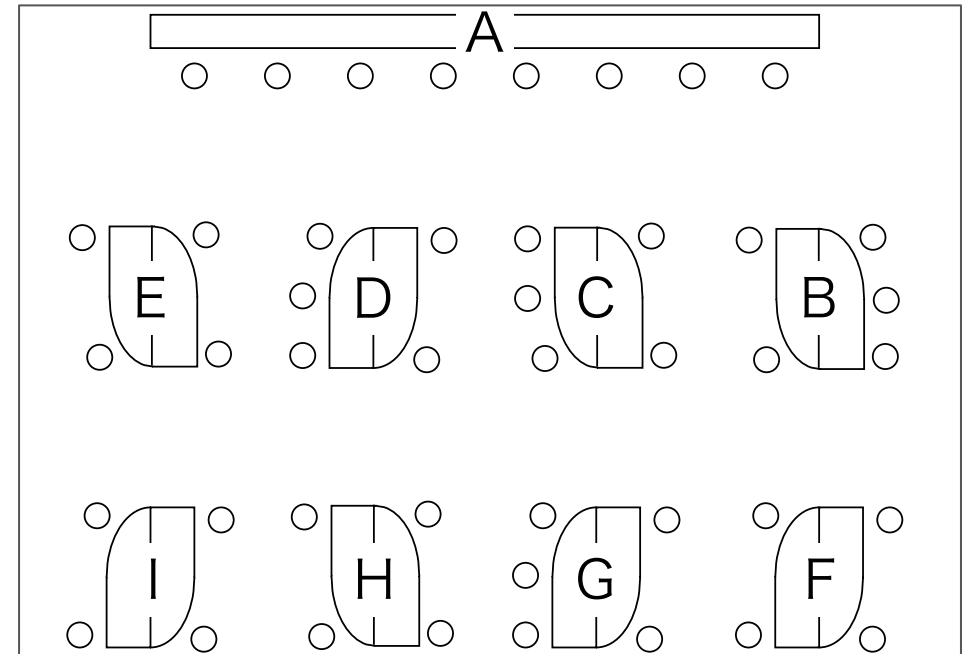
隣接 < 正面 < 介入 < 対角



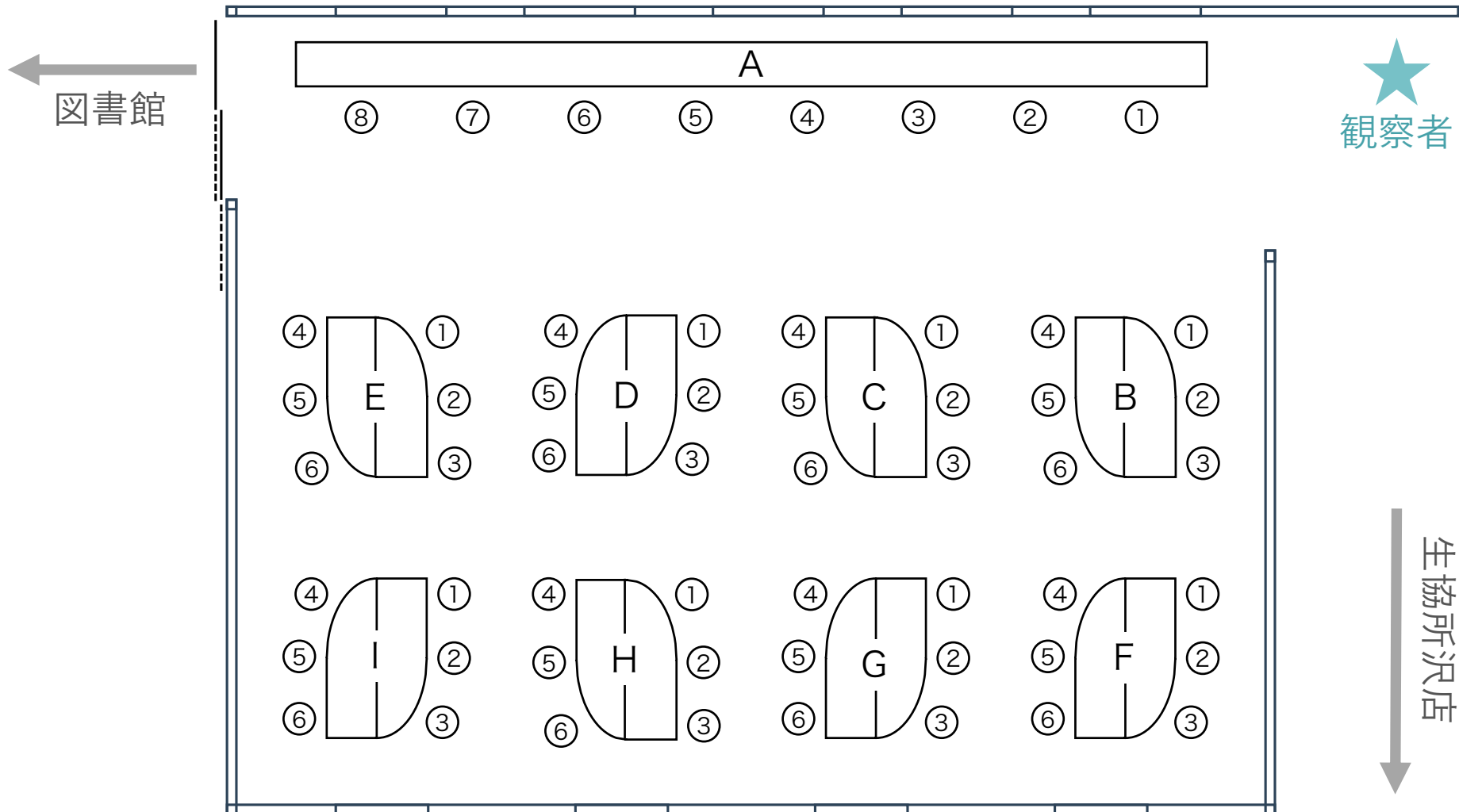
座席の選択率：

カウンター(A) = テーブル席(B~I)

座席の位置によって選択率に差はない



方法 1 . 調査対象場面 の 図面



方法 2 . 記録項目

調査対象

所沢図書館 開放閲覧室

調査日時

平日 3 日間の昼休み前後

6月12日（水） 11:00~13:00

6月13日（木） 12:15~13:15

6月14日（金） 12:00~13:00

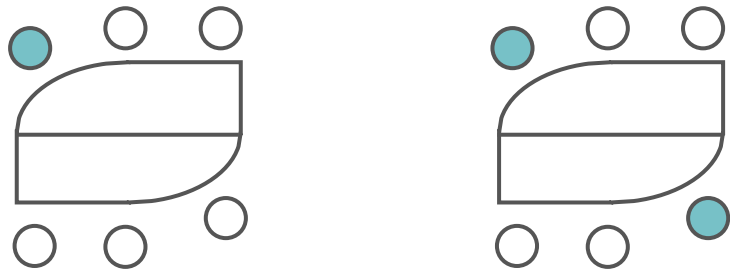
- 全体を見渡せる位置から観察
- 利用者の行動を妨げないような距離
- 見えない場合は見える位置まで移動

記録項目

- 各テーブルの椅子の配置
- 座席位置
 - テーブル名：A~I
 - 椅子番号：1~8（7, 8はテーブルAのみ）
- 行動
 - PC/スマホ/飲食/会話/筆記/読書/睡眠/荷物
 - ※複数の行動が見られた場合はすべて記録
- 座り方
 - 正面/隣接/対角/介入/空席
- 利用開始時刻
- 利用終了時刻

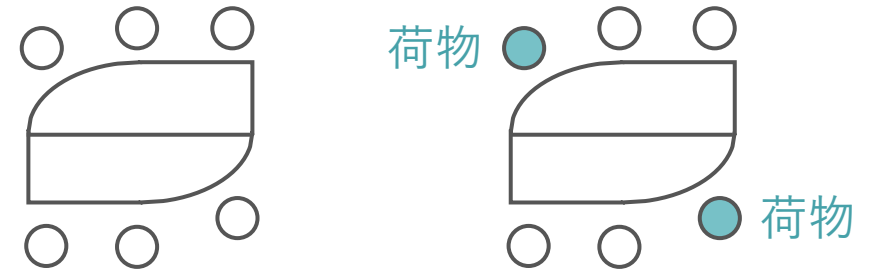
方法 3 . 相席可能テーブルと相席選択率

相席可能テーブル



利用中の座席すべてに人が座っている

相席可能テーブルではない



利用中の座席が 0 / 利用中の座席すべてに荷物

相席選択率：ある状況における利用者のうち、相席可能テーブルを選択した人の割合

$$\text{相席選択率 (\%)} = \frac{\text{相席可能テーブルを選択した人数}}{\text{利用者数}} \times 100$$

結果 1. 相席可能テーブル数と相席選択率

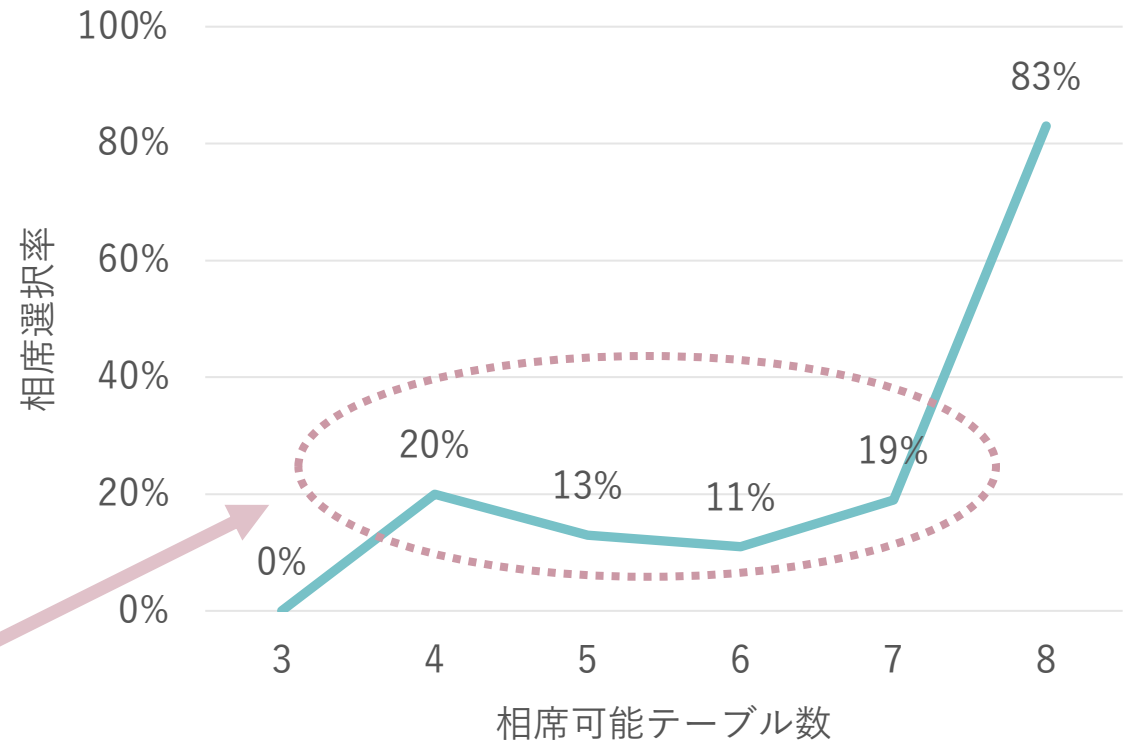
「相席可能なテーブルが X台あるときに相席を選択する人が Y%」 という関係をグラフ化

基本的には

相席可能なテーブルが増えると
相席を選択する人の割合が高くなる

一方で

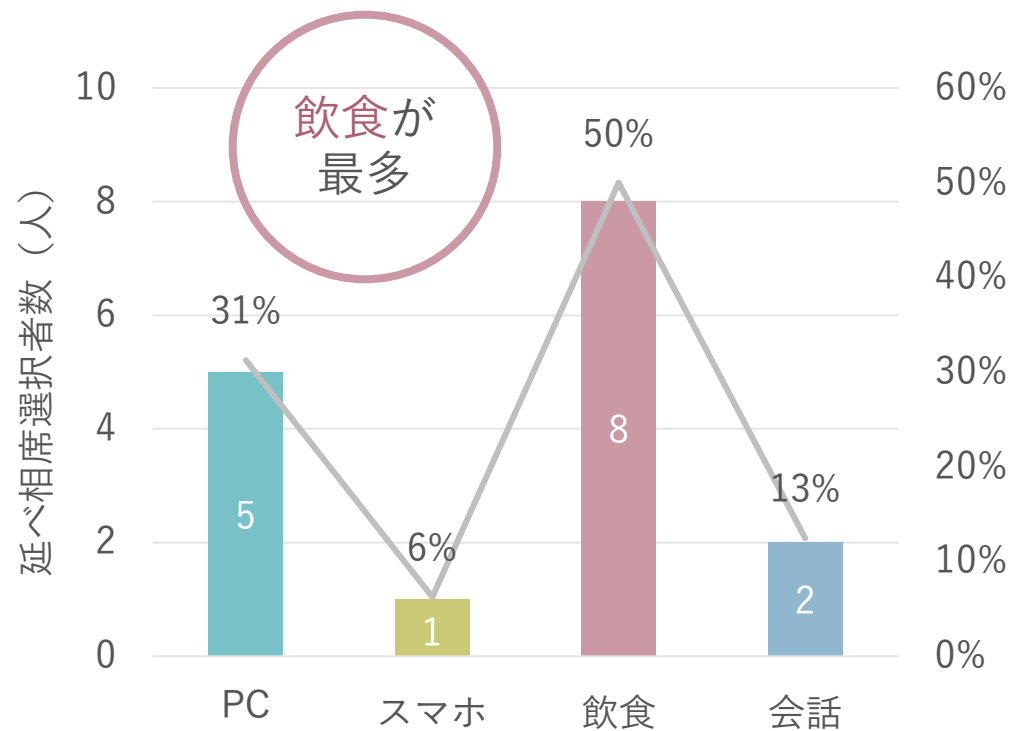
相席テーブル数 < 8 となる状況でも
相席を選択する人がいる



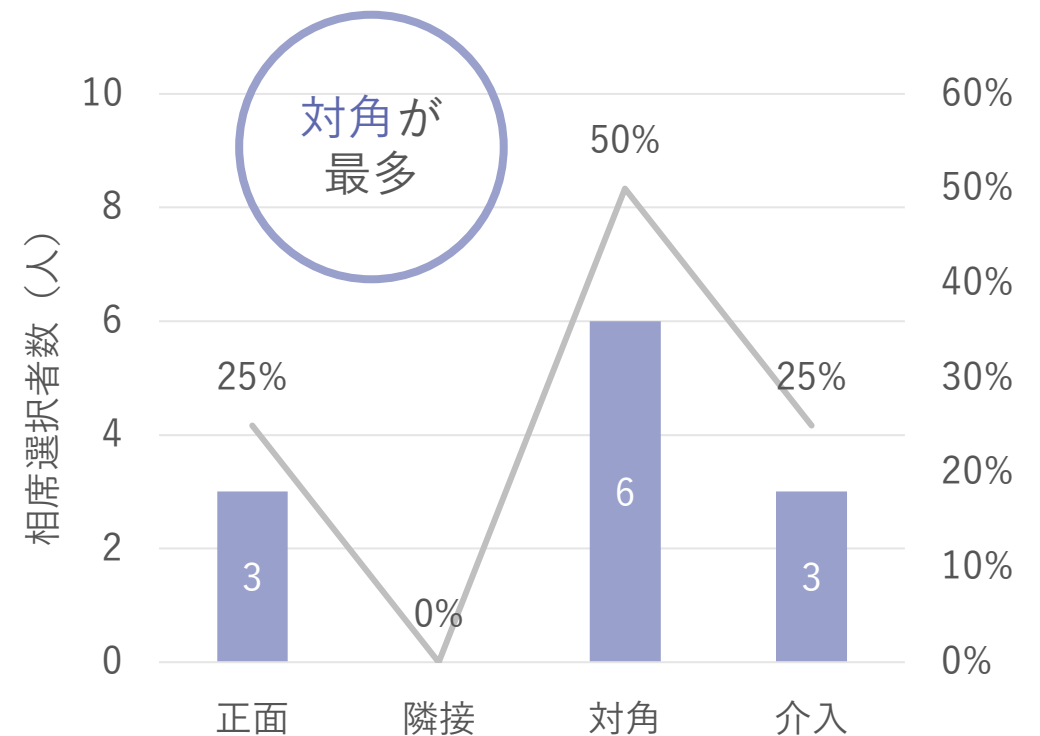
相席可能なテーブル数別に見た相席選択率

結果 2 . 相席選択者の特徴

相席せずに済む状況（相席可能テーブル数 < 8）において相席を選択した人の行動/座り方



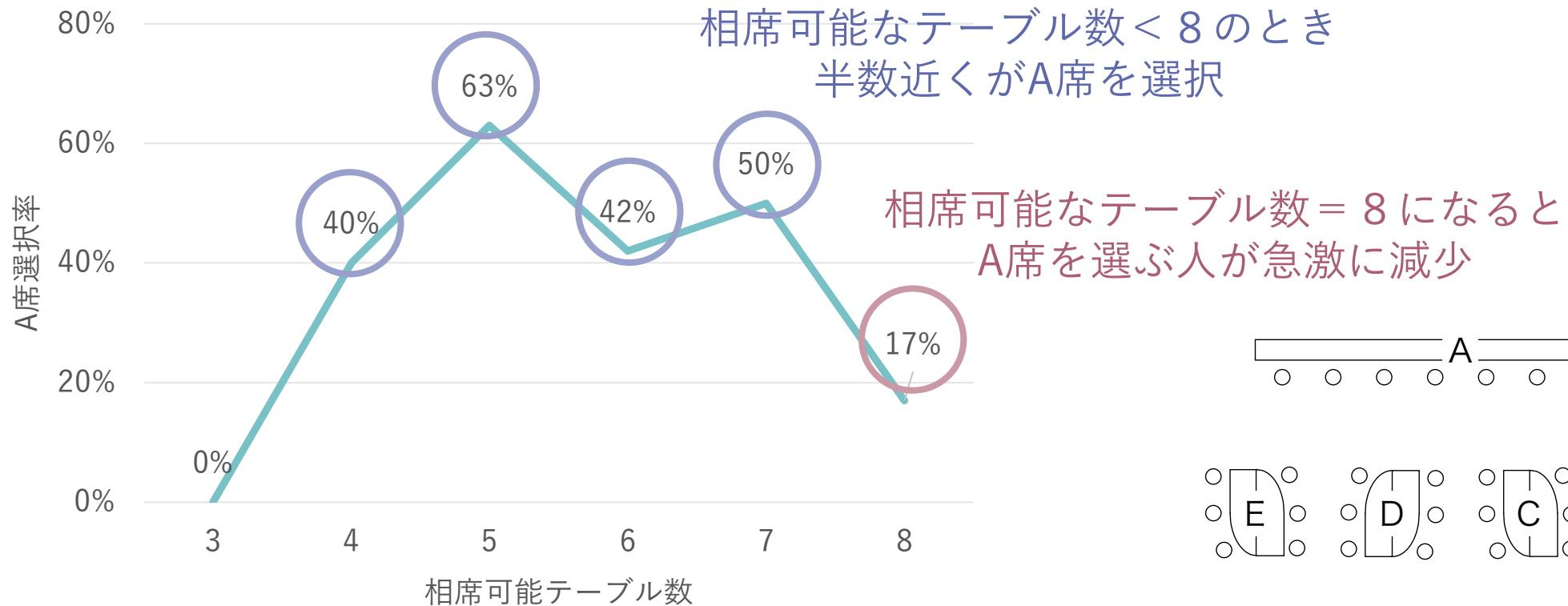
行動別に見た延べ相席選択者数 (N=16)



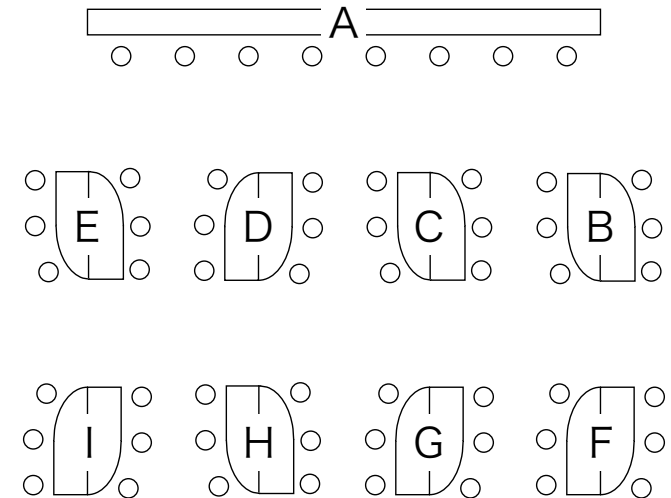
座り方別に見た相席選択者数 (N=12)

結果 3 . 相席可能テーブル数とA席選択率

「相席可能なテーブルが X台あるときに A席を選択する人がY%」 という関係をグラフ化



相席可能テーブル数別に見た A席選択率



考察

相席せずに済む状況なら相席を選択しない人が多い

そうした状況でも相席を選択する人の特徴

飲食

短時間の利用が前提（食べたら退席）

相席かどうかを確認せず
目についた空席に座るのではないか

対角

対人距離が最大になる座り方

できるだけ先客との距離を
とれるように座るのではないか

A席の選択率について

相席せずに済む状況

A席を選択する人は4～6割

相席せざるを得ない状況

A席を選択する人は2割未満

相席せずに済む状況では
A席が優先的に
選択されるのではないか

まとめ 1. 座席位置の提案に向けて

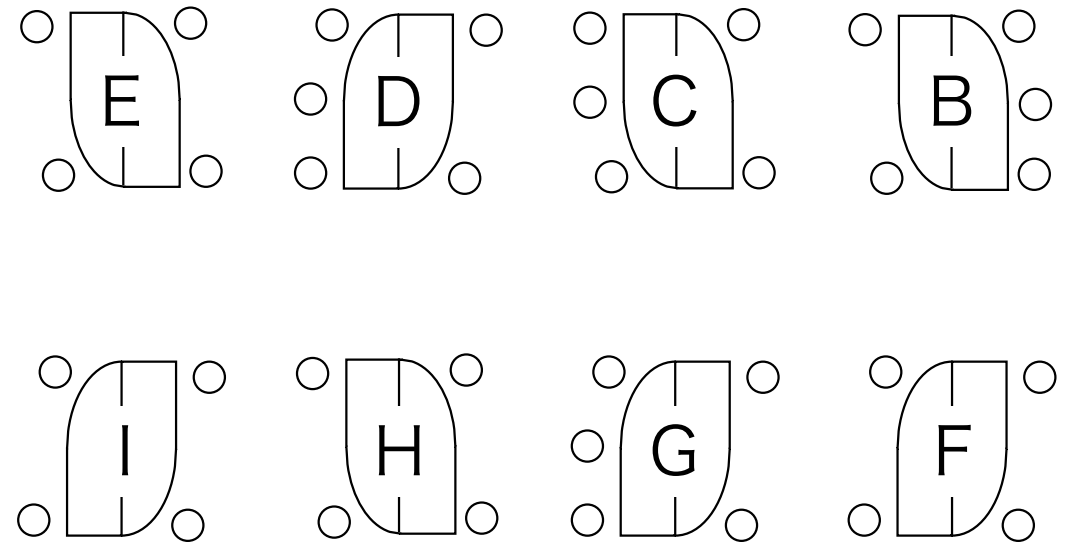
分析の結果から

相席可能なテーブルがある状況でも
カウンター席が優先的に選択される



相席回数を増やすために

カウンター席の座席数を減らすことで
テーブル席の利用を促す



現状のカウンター 8 席・テーブル 36 席から
カウンター席の一部をテーブルへ席へ移動

まとめ 2. 座席数の提案に向けて

分析の結果から
対角となる座り方が好まれ
隣接となる座り方が避けられる

効率の良い座席利用のために

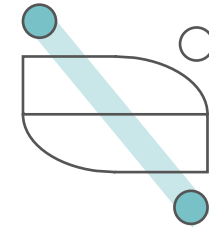
- 対角となる座り方が選択される
- 隣接となる座り方が選択されない

という条件下で
最も効率的に座席が利用されるような座席数を
最大座席占有率の比較から求める

3人席と6人席の組み合わせにすることで
最も効率的な座席利用ができる

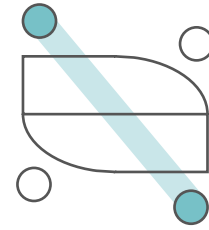
最大座席占有率

座席数 3



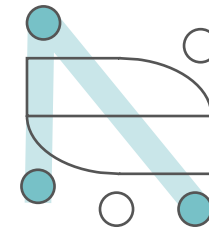
67%
(2席 / 3席)

座席数 4



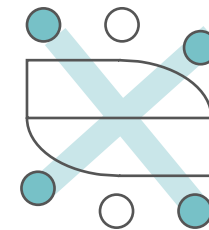
50%
(2席 / 4席)

座席数 5



60%
(3席 / 5席)

座席数 6



67%
(4席 / 6席)

まとめ 3 . 改善案

改善案の方針

カウンター席を減らす

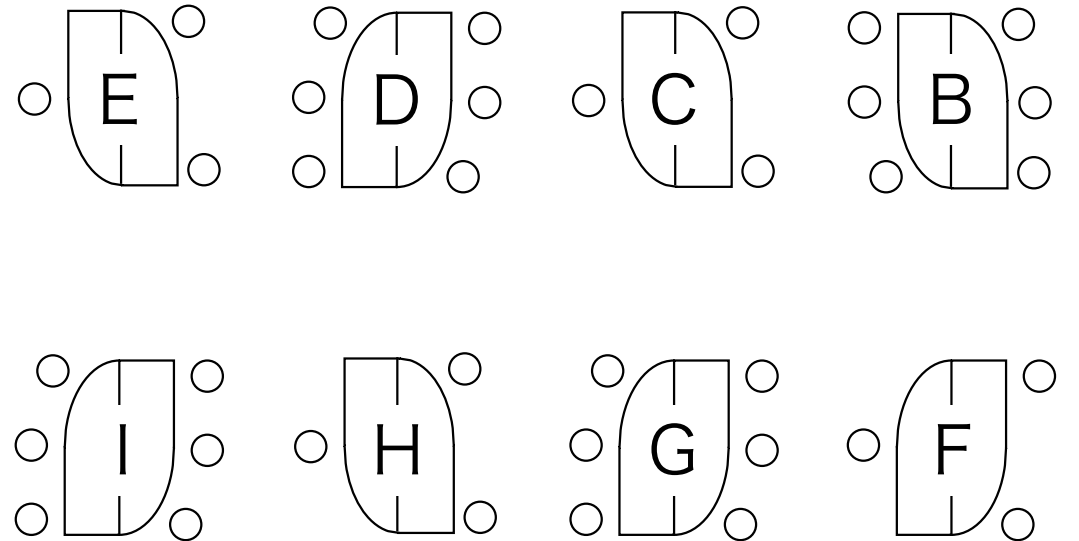
3人席と6人席の組み合わせにする

座席の改善案

カウンター (A) : 5席

テーブル(B~I) : 3人席 × 3テーブル

6人席 × 5テーブル



改善案 (一例)

総座席数・テーブル数を変えることなく
相席選択率・座席占有率を高めることができる

今後の展望

改善案の効果の検証

実際に

カウンター (A) : 5 席

テーブル (B~I) : 3 人席 × 3 テーブル

6 人席 × 5 テーブル

となるように座席を配置

- 相席選択率
- 座席占有率

がどのように変化したか観察

